

JAMの主張

田中ひさや必勝へ全力 価値を認めあう社会の実現へ

機関紙 J A M 2018 年 1 月 1 日発行 第 227 号

新年明けましておめでとうございます。

組合員ならびにご家族の皆様におかれましては、健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中に賜りましたご厚情に深く感謝申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年 7 月に機関決定を致しました「田中ひさや」候補予定者を擁立しての政策実現活動も残すところ 1 年 6 カ月となりました。昨年は様々な政局があり、暗たんたる思いを禁じ得ません。自らの当選を最優先に考えるのは政治家の本能かもしれませんが、誰のための政治か、何のための政策か、自らの理想に一本の筋を通さなければ国民の信頼は得られません。やはり、決してぶれることのない我われの代表である組織内議員の必要性を痛感させられました。気持ちを新たに「田中ひさや」必勝に向け、全力で取り組んでまいります。

今次春闘は、総じて堅調に推移している経済情勢に加え、とりわけ中小企業では人手不足が深刻化しており、賃金を上げざるを得ない状況にあると考えています。J A M として「価値を認めあう社会の実現」にむけた社会運動を一段と強化し、付加価値の適正分配を実現しなければなりません。その上で個別賃金要求をさらに前進させ、J A M に集うすべての労働者が、その社会的価値にふさわしい賃金を得られるように、力強く春闘を牽引してまいります。

また、組織強化・拡大は J A M の生命線といえます。中小企業における労働組合の組織率はわずか 2% であり、企業規模にかかわらず尊厳のある労働を確立させるためには、残り 98% の働く仲間の結集が欠かせません。

いずれにしても、連合内における中小労働運動への関心は年々高まってきております。執行部一同、全力で「中小労働運動を連合運動のど真ん中に据える」べく、努力してまいりたいと思いますので、組合員の皆様の一層の団結と行動を心よりお願い申し上げます。

末筆ではございますが、国内外で働くすべての組合員とご家族の皆様にとって、2018 年が幸多き年となりますようにご祈念を申し上げ、ご挨拶といたします。

J A M 会長 安河内賢弘